

## 第五十五回 例を上げて述べます

原因不明の高血圧はほとんどは頭のテッペンの後寄りの頭蓋骨と隣りあった後頭骨とが接している部分はこのこぎりの歯の様になった骨がお互いに入り組んでいるものです。

この入り組んでいる隙間が狭ますぎますと水道のホースの先を指先で押さえると水圧が高くなるように原因不明の高血圧となります。

逆に隙間が開きすぎますと原因不明の低血圧となります。そして顔の横から見て前面が左側と想像しますと左側の耳のあたりの側頭骨つまり顎関節のメス側(受け側)の骨が時計の針と逆方向に捻れますと左側の側頭骨の後側は左寄りの後頭骨と接して、後頭骨を後ろへ押しやります。ところが頭蓋骨の外側は筋肉で被っているために動きが限定されているため、左寄り後頭骨の上部は前方に押しやられ、左寄りの頭蓋骨との隙間が狭くすると血流障害だけでなく頭痛もするものです。

これが左右共に同じ様になりますと高血圧又は頭の後と頭の横に頭痛をおこすものです。この場合の左右の側頭骨は前から見て「八」の字型になり、上部は左右共に内側に圧迫、下部の顎関節部も「八」の字型に外側に開いているために口を開閉すると顎関節部の左右がポコンと音が鳴るものです。

ポコンではなくジャリジャリとか顎関節部の骨がこすれるようなタイプは頭蓋硬膜が緊張しています。頭蓋硬膜の緊張していますと全身の血流が悪く、病的な状態になり、病気の中の病気とも言われ、医者に言っても理解してもらえず、誰にもわかってもらえない辛さが原因除去しない限り、いつまでも続くことになるものです。怠け者と言われることがあるものです。首の骨は後方湾曲になり、首肩が凝るものです。

また、人によっては脊柱管狭窄症といって、立つとおしり・足に痺れや痛みをおこしやすくなる事もあるものです。高血圧タイプの側頭骨のズレの人でも低血圧です

話は元に戻ります。

片側の側頭骨だけですと側頭骨の上部は内側に向かって圧迫し下部の側頭骨の顎関節部は後外側に開くものですから下顎のゆがみ、口のゆがみが出てくるだけでなく、その側の肩の後の凝り又は痛みをおこしやすく、その側の体の胴体部と足との境目のソケイ部又はその側の足のひざの後ろの痛みが出たりするものです。

そして片側の肩の後ろが凝るものですから左右の側頭骨は互いに逆方向に捻じれているものですから左右の歯の咬み合わせのバランスが狂っているということです。

そしてこの場合の首の骨は生理的な前湾ではなく直になっているものです。首の骨の直(ストレートネック)又は後方湾曲は不定愁訴の塊とも言われているものです。

左右の側頭骨が前後的に同じ方向にズレをおこしていますと視力の良し悪しにかかわらず、左右の視力の度は同じです。

ところが左右の側頭骨が互いに逆方向にズレをおこしていますと左右の視力は違っているはずで  
す。眼球を囲んでいる周囲の骨の変化により片方の眼球は前後的に狭くなり反対側は逆に広くな  
るものです。

話はズレますが頭蓋骨の発達段階の子供の遠視、近視は歯の咬み合わせの前後のバランスを  
とる事により、顎関節部の側頭骨を時計の針方向又はその逆方向に動かせばだいたい良くなるも  
のです。

又コンタクトレンズが自分の眼に合っていない人は必ずしも高血圧、頭の後の頭痛がおこすとも限ら  
ないが高血圧タイプの側頭骨になっているものです。

そして自分に合わないコンタクトレンズを入れていきますと左右の眼球が奥へ押されて、顔の左右  
のほほ骨が前へ飛び出しますと肝臓、脾臓に異常をおこすだけでなく逆に下顎が後ろへ押し込ま  
れ 顎関節部を圧迫する事にもなりかねません。そして下顎を引っ張っている筋肉のうち喉のあた  
りの筋肉が緊張して喉が詰まる事にもなります。

話は元に戻ります。

鼻も同じです、左右の鼻が詰まる場合は先程述べた高血圧をおこしやすいタイプの左右同じ方向  
の側頭骨のズレです。この場合の首の骨は生理的な前方湾曲ではなく後方湾曲で 首及び両肩  
が凝るものです。

鼻の詰まりが片側だけですとその側の片側だけが高血圧タイプ の側頭骨のズレをおこしている  
ものです。

この様に人間の体は非常に不思議な構造になっているものです。高血圧の人で血圧を下げる降  
圧剤を服用していたり又は降圧剤を手で握ったり、ポケットに降圧剤をいれるだけで先程述べた  
頭頂骨と後頭骨の圧迫していた原因不明の高血圧が解除されるだけでなく製薬会社によって多  
少違いがありますが副作用として前立腺、胆のうに異常をおこすものがあります。前立腺は背骨  
の一番下の骨である腰椎 5 番、胆のうは背骨の上から4番目の骨である胸椎4番のこれらの骨が  
前方にズレたり、回転の捻じれをおこすだけでなく、側頭骨も先と全く逆方向に捻じれ、肩も後方  
でなく前方に凝り、頭痛をおこすとしたら顔のおでこの前面に変わるものです。降圧剤を体から1  
m離しますと又一瞬にして各骨が元のズレの状態に戻るものです。

不眠症の人と同じです。必ず首の骨の上から 2 番目の骨が回転捻じれをおこしているものでは  
その人に効き目のある睡眠薬を手で持つだけで一瞬に首の骨の 2 番目の骨が正常に 戻るも  
のですが副作用をおこす内臓と関係のある背骨は一瞬にして捻じれをおこし、薬を体から離しますと  
すぐに元の状態に戻るものです。

この様に薬では頭蓋骨及び体の骨格及び血流も変わるものです。それでは歯の咬み合わせのバ  
ランスではどうなのかといいますと仮に、左の奥歯が低いと右側の顔・首の血流が悪く首から下の  
胴体部は左側の内臓及び右の足までが血流が悪いだけでなく、首の骨は全体的に右側に前方  
の回転のズレをおこし人によっては顔は左は傾きやすく、左側の方がやや向きづらいものです。

そして右側は前方は、左肩は後方へ、骨盤は肩と逆で右は後方左は前方は回転のズレをおこすものです。

つまり体の胴体の上・下が捻る格好になり肩の痛みが全然とれないという事になるものです。また左の奥歯が低いと左の足または手の親指に異常をおこし左足の親指の関節の隙間が狭くなり反対側の足の甲の前に異常をおこすものです。

逆に左奥歯を反対の右より高くしますと、全てが逆になります。

ところが前歯から奥歯までの右側だけを反対側に較べてやや高くしますと、頭蓋硬膜の緊張をおこし体全体の血流が悪くなるものです。話はズレますが頭蓋硬膜の緊張は神経系の異常です、歯のインプラントとか歯の矯正治療とか頭蓋骨がズレた状態で歯の咬み合わせの調節したとか、自分の体に合わない薬を服用したとか、打撲を受けたとかにおこるのもです。

話は元に戻ります。

そしてこの場合は右側の頭のおでこは後方へ、左側は前方にズレ右側の頭のテッペンの骨は上へ左側は下へズレるものです。

この様な状態になると自然治癒力は相当低下し、朝は起きれない位に体はだるく、病気の状態になるものです。

この様に歯の咬み合わせのバランスが崩れますとこの様な状態になるものです。

花粉症も鼻水、眼のかゆみが主症状です。花粉症はアレルギーです。頭の右か左かの片側のおでこが奥へ入っています。前方へ出す事により、アレルギーの反応は消えます。そしてその上で鼻水は左右の眼と眼の間で鼻の上の凹んだところの骨の縫合部を弛ませると鼻水が止まると言われますが実際はそうはうまくいかないものです。

ところがこの凹んだところが内臓の小腸と深い関係があります。背骨では上から10番目の骨が回転の捻じれが前方変位をおこしているはずで、これを正常にすれば鼻水が止まるものです。

眼・まぶたは肺・気管支との関係です。又足の肢関節にも反応をおこしているものです。

肺・気管支は背骨の上から3番目です、このズレをおこしている背骨を正常にする為に歯の咬み合わせのバランスをとれば背骨等のズレが正常になり花粉症もだいたいおさまるものです。

アトピー性皮膚炎は西洋医学ではダニが原因と言われていますが、20年もアトピーで苦しんだ30才の女の人がお産をしたら消えてしまった。これは骨盤を介して背骨の上から9番目の骨が正常に戻ったのではないかと思われます。

お産をしなくても、顎関節と頭蓋骨と歯の咬み合わせのバランスをとればだいたい消失するものです。

この様に歯の咬み合わせの高低は体全体に反応が出ているものですが歯のインプラントだけはそうはいかないものです。

インプラントを入れている人は頭蓋硬膜の緊張つまり、神経系の異常をおこすものです。

頭蓋硬膜の緊張を除去した瞬間にガーゼ1~2枚をインプラントの歯に咬ませますと正常になるものですが、ガーゼ等を除去して1回でも咬ませますと頭蓋硬膜の緊張をおこし体が病的な状態に

なるものです。歯と歯の周りの骨との間のクッション作用のある歯根膜があるかないかによって大きな違いがでてくるものです。

歯の矯正も治療を致しますと頭蓋硬膜の緊張をおこすものですが、頭蓋硬膜の緊張を除去した後に顎関節症を治しながら歯の咬み合わせのバランスをとらねばなりません。

歯の矯正治療で顎関節症は治るものではありません。逆に悪くなるものです。歯の矯正治療はただ歯並びだけを美しくただけです。

この様に、顎関節症は顎だけの問題ではないものです。身体全体の「ねじれ」、歯の咬み合わせのバランス崩れが顎関節症を起こすものです。

ただし、私どもはマウスピースでも治療を致しますが、一言限らず言っております。

いつ治るかは分からないと……。神に訊いて欲しいと！